

振り返れば、一昨年の口蹄疫に引き続き、昨年県内で発生した高病原性鳥インフルエンザにつきましても、多くの方のご尽力によりまして、本町への侵入を阻止することができました。数々の苦難を乗り越えるたびに、改めて住民皆様の絆の強さを実感しているところでございます。

折から、昨年は、本町の新たな総合計画を策定した年でございます。私は常々、人は地域の財産であり、歴史、文化、そして産業発展の原動力であると考えています。この考えをもとに、総合計画で定めた町の将来像を『豊かな自然が宝物 みんなで紡ぐ結いのまち』とさせていたできました。先人から受け継がれてきた自然のありがたさを噛み締め、たとえ一本一本の糸は弱くても、みんなで糸を紡げば強靱な綱となり得ることを念願しています。その力で、新たな時代を切り開いていきたい、そういった意志を込めさせていたできました。

掲げた将来像を実現していく具体策といたしまして、次の施策に着手しております。農林水産業については、畑地かんがい事業による営農を推進するほか、秋そばの新品種の導入による安定生産や所得保障の対策を講じております。

次に、住民生活の利便性向上を図る施策のうち、野方ICにつきましては、先の県議会でも、知事から平成26年度中の設置に向け国と協議をするとの答弁があったことは、これまでの推進運動の成果と

して考えております。また、生活道路としての町道をブロックごとによる伐採・清掃管理の導入や、太陽光発電システムを導入されるご家庭への支援制度、町有地を有効活用した宅地分譲など、大崎町にある資源を活用する施策を実施いたしました。

さらに、今年の四月からは、鹿児島県からの権限移譲を受け、役場窓口でパスポート申請と交付ができるようになります。

このほか、産業活性化の取り組みといたしまして、大学と町内企業が連携した大崎ものづくり会館のオープン、『鰻』を活用した、あすばる物産館のリニューアルを実施しております。

近年は、異常気象をはじめ、家畜伝染病や大震災など、向かい風の中を進んでいくような状況もございました。しかし、冬の訪れがあれば、必ず春の到来もあります。私たち大崎町は、今後十年をしっかりと見据え、総合計画で掲げた明るい将来像を築けるよう挑戦を続けてまいります。

終わりに、町政に対する皆様の温かいご支援、ご協力に心から感謝いたしますとともに、この新しい年が大崎町民すべてに希望あふれる一年になりますことを心から願っております。

『龍』は力、健康、調和、そして幸運の象徴といわれます。その二〇二二年が、飛躍の年になることを祈念しまして年頭の挨拶といたします。